



平成25年度

第12回みみらんどセミナー

教科学習シリーズ②

☆ 実施日時 ☆ 平成25年11月27日(木) 13:00~14:30

☆ テーマ ☆ 『国語』の学習ワンポイント

☆ 講師 ☆ 福島県立聾学校小学部 教諭 三瓶伸江

第12回みみらんどセミナーの概要をご報告いたします。

小学部の国語は、日本語で「読み」「書き」「思考する」基礎を培う教科であるとともに、すべての教科の学習活動の基本となる教科でもあります。そこで、この講座では、国語力になる「読む力」「書く力」「思考する力」を育てていくための具体的な方法や配慮点についてお話をいただきました。

「読む」ということは、「文字や文章を声に出して読むことができる」ということだけではありません。日常生活における言動そのものが「読む力」に深く関係しています。例えば、人と話すとき、私たちは、相手の言動や感情を解釈したり、推測したり、また、相手の立場を理解したりしながら会話をしています。これを「心の活動」と言いますが、この「心の活動」そのものが「読む力」と言えます。お子さんと何気なく話していることもお子さんの「読む力」を育てることにつながってきます。お子さんといろいろな話題で、たくさん話をすることを大切にしていきましょう。そして、「心の活動」が豊かになることは、「登場人物の心情や気持ちを読むことができる」ことにつながってきます。

「書く力」をつけるための配慮として、書き言葉は、話し言葉を土台に発達するので、日常生活の会話の仕方が大切です。単語のみではなく、主述の通った会話をするように心がけましょう。また、書く機会を多く作ることが大切です。絵日記は「書く力」をつけるためにとても良い学習です。書きたいという気持ちや意欲を大切にしたり、書く事柄を見つけ出させたりする方法を具体例から説明いただきました。文章を書き終えたら、声を出して誤りがないかを確認する習慣をつけていくことも大切です。さらに、多くの文章を読むことも「書く力」を育てることになります。たくさん本を読んだり、自分で読めないお子さんには読み聞かせをしたりすることも有効です。身近に本がある環境作りも大切です。自立心が芽生え、自分を客観的に見え始めたころには、是非、伝記本に触れさせていしましょう。

「思考する力」をつける配慮として、考える場面を多く作ることが大切です。他人の考えと自分の考えを比較したり、「なぜ」「どうして」「それからどうなったの」などの質問に答える経験を多くさせたりしましょう。

国語の授業の様子もビデオでご紹介いただき、毎日の授業で大切にしていることや家庭での関わり方についてお話しいただきました。

参加者からは、「なぜ、毎日の会話が大切なのか」「読書の大切さ」「絵日記の関わり方」がよく理解できた感想をいただきました。また、授業の様子を知ることで、家庭で取り組めることが見えてきたとの話もいただきました。

